

実盛奇蹟の正体

中村 格

謡曲『実盛』が「滿濟准后日記」応永廿一年五月十一日の記事「齋藤別当実盛靈於加州篠原出現。逢遊行上人。受十念云々。」に窺えるセンセイショナルな怪談事件を脚色したものであろうとは、すでは香西精氏等によって指摘されるところであるが、この「事件」には、多分に演出の疑いがある。

神奈川県立博物館蔵「遊行縁起」(室町時代・注参照)に収録する実盛奇蹟譚は、「謡曲拾葉抄」所引「時宗縁起」のそれと違って、はるかに古態を伝えるものと思われるが、その中の十四代他阿上人太空(一二七五—四三九)の項に曰く、

(太空上人は)中一年利益して加州潮津道場にして、応永廿一年三月五日より七日七夜の別時あり。中日にあたりて、白髮なるもの来て算をとる。世のつねの人ともおぼえぬものかなと思はれけれども、諸人群集の喞なれば、まぎれて見えざりけり。翌日に篠原の地下より齋藤別当より遊行へ参て、算を給たれと風聞せり。是則天に口な

し、人を以てさへづるといふ謂敷。同十日地下より申様は、齋藤別当の為に卒都婆をあそばして給候へ、立候はんとて十四五尋ばかりの木を削て進じたり。さらばとてかゝれぬ(云々)。

別時念仏の中日、諸人群集する中に白髮の老人現れて算を遊行上人に賜わるくだりは、

『実盛』の前ジテが、^{サシ}へ笙歌遙かに聞こゆ孤雲の上、聖衆来迎す落日の前。鉦の音・念仏の声の聞こえ候。さては聴聞も今なるべし。」と登場してくるあたりに照応して興味深い。

ところで、注目しておきたいのは、件の老人を実盛の幽霊出現と「風聞」したのは、「篠原の地下」であったということである。もちろん、「縁起」というものの性格上、そのまま信用するわけにはいくまいが、卒都婆建立に、ほかならぬ篠原の地下が一枚噛んでいたというところには奇妙なりアリティがある。元来、北陸地方、とくに越前をはじめとする加賀・能登・越中・越後の各地は、二世真教の遊行回國によって、あまねく教線が扶植

され、時宗勢力の盛んな所であった。庶民はもとより、在地武士層とのつながりも強固で、遊行十代上人元愚(一二三四—一三八七)は、加賀齋藤氏の出身と伝えられる。因に、齋藤氏は、北陸一帯に栄えた氏族で、実盛はそのうちの一つ、吉原齋藤氏の族流の出といわれる。

さて、中世の武士に、いかに念仏信者が多かったかは時宗研究家の等しく説くところである。彼等は平素時宗の道場に入入しては法義に耳を傾け、深く宗門に帰依していたといわれる。「篠原の地下」もかかる在地武士の類ではなかつたらうか。

加州篠原(現在石川県江沼郡片山津町)は、実盛敗死の古戦場と伝えられ、その悲壮な物語は、中世以来、平曲に語られて、あまねく人々の知るところであった。潮津はその篠原に南西に地続きの宿駅。この地の道場で修せられた別時に参った老人を、実盛ゆかりの篠原の地下——おそらく太空に帰依する念仏信者たちが、実盛の幽霊出現して算を遊行に賜うたと騒ぎたてたのである。

彼等は即刻、十四・五尋もある大木を上人に進上して卒都婆建立を懇請し、遊行側もまた、「天に口なし、人を以てさへづるといふ謂敷」と快諾して碑銘を誌し、共に建立するという次第であるが、これはあまりに手のうちを見せ尽くした靈験譚であり、それだけに却っ

て事件の真相を伝えているのかも知れない。

一体、事件の発端が、遊行側から仕組まれたものか、地下側の演出であったのか、もちろん知るすべはないが、ただ、両者の協力によって卒都婆が建てられ、世に喧伝された事だけは確かである。前掲「満濟准后日記」同月同日の条に「卒都婆銘一見了。実事ナラバ稀代事也」とあるように、それは二月も経ぬうち、早くも満都の耳目を惹きつけていたのである。「縁起」によれば趣意書には、

夫以亡魂真阿武名之昔施普於東域之外法称之今得望於西刹之内於戲落花待微風孟持持泣要琴、蓋此謂而已云々。

と誌していたという。

説くところは、実盛結縁の時刻到来であるが、もって、一見の衆生にも結縁を勧める機縁としたのである。もちろん、卒都婆建立の由来が、遊行上人の念仏奇特として流布することも十分計算に入れてのことであろうとは想像に難くない。

応永卅一年、四条派の本山金光寺を、藤沢派七条道場の末寺とするという將軍義量の裁量を不満として、四条派の時衆が自ら道場に火をつけて自焼せしめるといふ事件があったが、これについて「看聞御記」は、近年、七条上人(但し、十五代尊恵)は念仏奇特によって万

人はもとより、室町殿(義持。義教ではない)をも信仰せしめているくらいだから、四条は七条の末寺になっても仕方がない旨の世評を書き留めている。自宗の存立にとって、念仏奇特がいかに大きな役割を果たしたかを証明する例であろう。「念仏の他に往生なし」とする時宗であっても、起堂造塔と念仏奇特は、一般庶民に喰い込む、最も効果的な布教活動であったに違いない。

太空は歴代遊行上人の中でも、最も有能な教団経営者であったといわれ、將軍義持にはとり入って、遊行回國人夫馬興無税通関の御教書を出さしめているほどの政治家である。

一方、折から京都では、太空の藤沢派と四条派との対立が深刻化しつつあったが、実盛奇蹟はそれにも備えての、太空上人と、篠原の地下たちが画策した「事件」ではなかったろうか。

とすれば、応永卅年以前、すでに度々上演されて世評を獲得していたという『実盛』もまた、案外、この芝居の片棒をかつがされていたのかも知れない。

(注) 巻物。先年、時宗研究家大橋俊雄氏によって翻刻された。氏から直接の御教示によれば或は応永年間の筆かとも。

(東京学芸大助教授)